

(別紙様式2)

普及指導員調査研究報告書

課題名：レザーファンの生理障害の原因究明と対策の検討

所属名：山口農林水産事務所

担当者氏名：友廣 大輔

<活動事例の要旨>

レザーファンの生理障害（葉焼け）の原因究明とその対策の検討を行った。

1 普及活動の課題・目標

防府市台道地域では、以前から部会組織でレザーファンの栽培が行われている。近年レザーファン栽培において、生理障害とみられる葉焼け症状の発生が出荷量の減少要因となっており、その原因究明や対策が求められていた。

2 普及活動の内容

部会内で、葉焼けの発生状況を把握するとともに各種調査を実施した。

(1) 簡易土壌断面調査等

- ・部会内で発生状況（症状及び発生時期）のヒアリングを行った。また、障害発生が多いハウス（2か所）と少ないハウス（2か所）を選定し、簡易土壌断面調査を実施した。

(2) ICPによる微量要素分析

- ・ヒアリングの結果、葉焼けに複数の症状が見られたため、症状ごとにサンプルを採取し、農林総合技術センターと連携し、ICP発光分析装置による微量要素の分析を行った。

(3) 土壌分析等

- ・レザーファン部会では、年1回土壌のフル分析を実施していることから、発生が多いハウスの分析結果を経時的に確認した。



3 普及活動の成果

(1) 簡易土壌断面調査等

- ・ヒアリングの結果、障害の発生状況はほ場ごとに程度の違いが見られた。発生時期は、高温期（5月下旬）以降に発生が多くみられることが明らかになった。
- ・障害発生の有無に関わらず、いずれのハウスも土性や排水性等に大きな違いは見られなかった。
- ・一方で、障害の発生が多いハウスでは、根量の少ない株が多い傾向（特に萌芽が見られる部分で顕著）が見られた。



(2) ICPによる微量要素分析

- ・分析結果では、症状の有無やその症状に関わらず、特定要素の過剰や欠乏は見られなかった。
- ・また、葉の成熟状態が異なる葉も分析したが、分析結果に大きな違いは見られなかったことから、慢性的な影響というよりも急性的な影響により症状が発生している可能性が示唆された。

(3) 土壌分析等

- ・ pHは最適 pHの範囲内に収まっていたが、症状の多いハウスでは、継続的に高EC及び塩基飽和度の高いほ場が多い傾向が見られた。

(4) 考察

- ・ 調査結果から、レザーファンの葉焼け症状は、地下茎から発生する根量に大きな影響を受けていることが推察されることから、症状を軽減する対策としては、土壌分析に基づく施肥管理を徹底し、適切な土壌環境による根量の確保が必要と考えられる。
- ・ 一方、ヒアリングでは、高温期から発生が多くなっているとする声が多いことから、高温対策による栽培環境の改善によっても障害発生を効果的に抑制できる可能性もある（ユリ類の葉焼け症と同様に）ため、追跡調査が必要である。

4 今後の普及活動に向けて

- ・ 古い園芸産地では、塩類集積等により土壌環境が悪化するケースは多いため、土壌分析に基づく適切な施肥管理の徹底を行う必要がある。
- ・ また、近年の夏場の高温は、栽培面における大きな環境変化要因であり、障害発生の複合的要因となりうるため、注視していく必要がある。